

リンドウの生長に応じた 栽培技術習得による収量向上

湖北農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

リンドウは、盆や彼岸用の仏花やパック花の花材として需要があり、当センターでは平成 29 年度から小菊とともに中山間地向け品目として栽培推進してきました。現在 13 名が販売用に栽培されていますが、栽培 1 年目の株から 5 年目の株まで経年数の違う株が栽培されています。

そこで、栽培者(13 名)を対象に株の経年数や生長に応じた栽培技術の習得を促し、継続して出荷・販売できる産地を目指して活動しました。

【普及活動の内容】

リンドウの栽培期間である 3～10 月の月初めに、「リンドウ情報紙」を JA を通じて栽培者に配布し、その内容が実践されるよう、ほ場巡回による支援を進めました。

栽培 2～5 年目株の栽培者には、株の生長に応じた花茎の仕立数や肥培管理と、出荷に向けた開花状況を把握し切り前を助言しました。また、病虫害防除は、5 月に防除暦を配布し、灰色かび病、葉枯病、アザミウマを中心に計画的な防除実践を呼びかけました。

さらに栽培 4～5 年目株の栽培者には、株維持のための収穫技術として、1 株に 2～3 本花茎を残す、または、切り下を長めに残す方法に取り組んでいただきました。

【普及活動の成果】

以上の活動から、対象者の栽培管理や収穫・出荷は概ね順調に進み、栽培者全員が花き市場や地元直売所へ出荷されました。

販売本数は 28,700 本(花き市場への出荷が 19,900 本、地元直売所等への出荷が 8,500 本)で、前年の販売本数(19,990 本)の 1.4 倍になりました。

来年度は定植後初めて出荷を迎えられる栽培者や、これから新規に栽培を開始される栽培者もおられ、年々、栽培が拡大しています。

今後も、リンドウ栽培が定着し、継続して市場へ出荷・販売できる産地を目指します。



写真1 5月の個別現地巡回



写真2 出荷箱詰めのリンドウ

◎対象者の意見

リンドウは、需要期である盆より前の 6～7 月でも市場単価が高めでした。小ギクとリンドウの作業が重ならないように早生の品種を増やしていきたいです。(栽培者 T 氏)